

タカラさちか後援会 共同代表のご紹介

タカラさちか後援会は、以下の皆さまに共同代表としてお支えいただいております。糸数慶子さん、稻嶺進さん、親川裕子さん、高良鉄美さん、仲里利信さん、仲地博さんの6名です。今後、共同

SACHIKAKA COLUMN

仕事と子育ての両立?

代表の皆さまには「ミモザだより」にて、リレー形式でエッセイをご寄稿いただく予定です。どうぞ期待ください。今回はその第1回として、仲地博共同代表にご執筆いただきました。

Essay



サチカさんとの出会いと期待

仲地 博 沖縄大学名誉教授
後援会共同代表

サチカさんが私の前に現われたのは、サチカ46歳の年齢から逆算してみると四半世紀も昔のことになる。

地元紙オピニオンのページに県外から投稿する青年がいることが目に止まった。学生の投稿は珍しいし、それが二度三度と重なると、沙哉という読みにくい名前も相まって、自分の思考を堂々と発表する期待できる青年として私の記憶に残った。サチカさんとの出会いであった。

リアル高良沙哉が目の前に現れたのはそれから3年ぐらい後ではなかつたか。当時私は琉球大学の教授で、大学院の行政法を担当していた。聞いてみると高良鉄美教授を指導教授として研究生をやりたい、について行政法ゼミにも参加させて欲しいということであった。もちろん大歓迎である。大学院では講義もゼミも教員学生の双方

で授業が行われるが、サチカさんは私の期待に応えゼミを盛り上げてくれた。

サチカさんは、期待通り、沖縄大学をはじめ県内大学や専門学校で教壇に立つようになり、期待通り母校北九州市立大学の博士課程に進学して博士の学位を得た。社会的活動も目覚ましく、期待通り沖大の看板教授となつた。副学長に就任の打診をしたが本人が断つたという噂も耳にはいってきた。いずれ沖大の学長だろうと期待していたが、期待を裏切り、憲法の研究者から行動する実践者になるという。その潔さに私は脱帽し(もともと着帽していたわけでもないが)、乞われるままに後援会の共同代表にもなった。

こうなつたら改めて期待しよう。サチカさんは、沖縄のタカラ(高良)から日本のタカラ(宝)に成長してほしい。サチカさんは、「すべては沖縄のために」と言っている。沖縄は日本の縮図だ、沖縄のためになることは、国民のためになることなのだから。

支援のお願い

日頃よりタカラさちかを応援してくださり、心より感謝申し上げます。皆さまのあたたかいご支援が活動の大きな力となります。

ご寄付をご希望の方は、右記のQRコードからホームページのフォームに、住所、氏名、電話番号、職業、メッセージをご記入のうえ、お振込みをお願いいたします。

口座名: タカラさちか後援会 代表 坂本 沙哉

寄付フォームは
こちらから
お願いします



振込先	支店名	店番号	口座番号
琉球銀行		251	(普) 198332
沖縄銀行	県庁出張所	012	(普) 1308906
沖縄県労働金庫		953	(普) 3421058
沖縄海邦銀行	首里支店	025	(普) 666050

連絡先

国会事務所

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館712号室
TEL.03(6550)0712 FAX.03(6551)0712
沖縄事務所(後援会事務所)
〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄553
丸高ハイム101号室
TEL.098(885)7171 FAX.098(885)7181
✉ info@takara-sachika.jp

タカラさちか

生きるを政治の真ん中に!

ミモザだより



8月1日 初登院 うりづんの会の先輩方と

『平和の一議席』を引き継ぎ、憲法の研究者から実践者へ

いつも見守ってくださっている皆様、こんには。お元気でお過ごしですか。7月20日に参議院議員に初当選いたしました、高良沙哉(タカラさちか)です。

「憲法の研究者から行動する実践者へ」。初めての選挙でしたが、多くのみなさまのあたたかい応援をいただき、無事に当選を果たすことができました。当選の瞬間、心の底からホッとした。

選挙を振り返ると、みなさまとともに流した汗や、一緒にお手振りをして笑い合ったこと、日々の頑張りにお互いを労いあつたこと、そしてともに涙を流したこと、そのような楽しかったことばかりが思い起こされ、感謝の思いでいっぱいです。

8月1日、国会議事堂の正門をくぐった初登院。うりづんの会の先輩方(赤嶺政賢衆議院議員、新垣邦男衆議院議員、屋良朝博衆議院議員、伊波洋一

参議院議員)が出迎えてくれました。沖縄のために力を尽くす先輩方の背中を追いかけながら、自分のこれまでの経験を活かせるように、「沖縄の民意を背負って」私も全力で取り組みます。

一年生議員の私は、一番前の席で本会議に出席しています。議場の席に座っていると、「自民党の大敗」「少数与党」といっても、圧倒的に保守勢力が多いのだと感じる場面が多くあります。参議院議員248議席の中で、沖縄

に想いを寄せてくれる議員がどれだけいるのか、沖縄の基地の過重負担の過酷さ、沖縄の歩んできた苦難の歴史を理解している議員がどれだけいるのだろうか、と考えると暗澹たる気持ちになることもあります。しかし、私が

引き継いだ「平和の一議席」は、平和を志向し、しっかりと沖縄の立場で考え方主張する大切な一議席。ひるんではいられません。

第219回臨時国会では、常任委員会

参議院議員 沖縄選挙区

高良沙哉  

#タカラさちか

2026年1月 vol.1

takara-sachika.jp

である環境委員会と、デジタルAI特別委員会に所属することになり、たった5日間で終わった第218回臨時国会と異なり、委員会質疑の機会も得ました。どの委員会にいても「沖縄のことを取り上げる」という決意のもとで、沖縄の声を直接政府にぶつけ、みなさまの温かい応援に見守られながら、初質問を終えることができました。

今、日本の政治はかつてないほど大変な状況にあります。日本で初の女性総理大臣の誕生、日本の平和主義を破壊しかねない高市総理大臣の誕生を最前列で目のあたりにしました。これまで憲法を学んできた者として、沖縄を戦場にしないための研究をしてきた者として、今の政治の暴走を止める楔にならなければならぬと決意を固めています。

みなさまに与えていただいた議席を、沖縄のために活かすという、希望にみちた想いを込めて、「ミモザだより」第1号をみなさまにお届けします。

国会質問 —沖縄のことを全力で

初めての国会質問 —島の医療・基地・次世代育成

初めての委員会質問はデジタルAI特別委員会でした。島々に足を運んだ際に、島の医療格差について話を伺ったことから、①島の医療格差とDXの問題を取り上げました。ライフワークである基地問題では②米軍嘉手納基地への最新の無人偵察機MQ-4配備について説明責任を問い合わせ、その他、AI技術の進展が雇用に与える影響や沖縄科学技術大学院大学(OIST)を活用した沖縄の次世代育成について質問しました。

デジタルAI委員会質問
ご視聴はこちらから ➤



11月28日 デジタルAI委員会



12月2日 環境委員会

PFAS汚染と沖縄の理不尽な負担を問う

常任委員会である環境委員会での質問の機会は待ちに待ったものでした。沖縄に関する環境問題を一つひとつ委員会で取り上げて、少しでも解決に繋げたい、そんな強い気持ちを持っています。

環境委員会での初めての質問はPFAS問題を取り上げました。沖縄県民が約10年間も悩まされているPFASによる水の汚染。基地内への立ち入り調査も拒否されているために、汚染の「原因者」が特定されず、米軍基地との関連

性が証明されない中で、沖縄ばかりが負担を負うという状況が継続しています。①PFAS汚染に対する政府の認識、②北谷浄水場の高機能粒状活性炭更新の費用負担について、③米軍基地への立ち入り調査について質問しました。

政府の回答は到底満足できるものではありませんが、今後も諦めず情報を収集して追求していきます。

環境委員会質問
ご視聴はこちらから ➤



しかもその前提が、軟弱地盤のために遅々として進まない辺野古新基地の完成なのです。国民を欺くにも程があります。

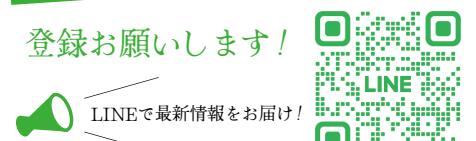
高市総理は、議場で何度も、「戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している」と神妙な面持ちで使い古されたセリフを口にしました。しかし、「台湾有事」を存立危機事態と述べたことで、中国との間に緊張関係を作り、最も厳しい安全保障環境に国民を陥れ、経済的にも打撃を加えたのは高市総理本人でした。関係を修復しようとする意思もみられず、時間がすぎ、国民にとって最も厳しい安全保障環境の中で年末年始を迎えることになってしまいました。

高市総理の「外交・安全保障」に対する沖縄の現実を見ない所信に落胆しました。沖縄の民意を一顧だにしないにも関わらず、国民の代表者を前に、「地元を含む国民の皆様のご理解とご協力を得ることが不可欠」、「基地負担軽減に引き続き取り組」む、「普天間飛行場の一日も早い返還を目指」すなどと述べ、

です。平和主義の実現に重きを置いて日本国憲法を学んできた者として、あまりにも残念な政治状況だと言わざるを得ません。「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」(日本国憲法前文2段)。武力に頼らない先進的な平和主義を掲げたからには、アメリカ一辺倒ではなく、多くの国々との信頼関係を築くのが本来の国政のあり様ではないでしょうか。私は、沖縄を戦場にしないために、一議員としてできる他国、地域との信頼構築に力を尽くし、平和を創造していきます。

タカラさちかLINE公式アカウント

登録お願いします!



活動報告 —参議院会派「沖縄の風」として、島々の魅力と課題を見つめて



高良鉄美先生(高良先生は、琉大に研究生として通っていた頃からの私の恩師です)の後任として、会派「沖縄の風」に仲間入りをしました。

第218回臨時国会の後、第219回臨時国会が始まるまでの約3ヶ月の間に、「沖縄の風」としていくつかの島に伺うことができました。

8月26、27日初めての南大東。遅れて到着した空港では、選挙の際に応援してくださった仲間が迎えてくれました。南大東は大雨被害のあとで、だいぶ水が引いているものの、床上浸水の後片付けに追われている方々もいて、状況を伺うことができました。高台から見渡した広大な

サトウキビ畑に感動し、また今後の農業を支える新たな技術の進展にも希望を感じました。南大東は、大和の文化と沖縄の文化が混ざり合う独自の文化を形成しており、観光業の可能性も大きく秘めている地域でした。

9月15、16日に訪れた座間味は、行きのフェリーのあまりの混雑に驚きました。

海外からの観光客が、座間味の美しい自然を求めて殺到していました。オーバーツーリズムや海洋漂着ゴミなど、観光業の脅威の一方で問題があることも知りました。その後、11月23日には、座間味の戦争と環境問題について、さらにお話しを伺うために再訪しました。

9月17日には渡嘉敷を弾丸訪問。渡嘉敷は、本当は夜空の星が魅力と聞きましたが、日帰りで見ることがかなわず残念でした。その代わり、素晴らしい景色が見渡せる青少年の家を訪問しました。教育や交流の拠点として、今後の更なる可能性を感じました。

そのほか、糸数慶子元参議院議員と久米島、屋良朝博衆議院議員と伊江島にも足を運びました。沖縄には魅力的な島がたくさんあります。島の魅力を見つけ、それとともに課題を受け止め、解決の道筋を探す。そんな旅の機会をこれからも多く持ちたいと思います。